

平成 30 年度海岸漂着物等地域対策推進事業（発生抑制対策）PR 映像制作・上映業務委託
企画提案コンペ選定要領

（目的）

第 1 条 この要領は、平成 30 年度海岸漂着物等地域対策推進事業（発生抑制対策）PR 映像制作・上映業務委託企画提案コンペ選定委員会（以下「選定委員会」という。）が行う最優秀提案の選定について必要な事項を定める。

（適否評価）

第 2 条 選定委員会による評価及び選定に先立ち、環境生活部大気・水環境課は、提出された各企画提案資料等について、3 名の職員が別紙 1－1「適否評価表」に基づき適否判定を実施し、提案者が適格者であることの確認を行う。

2 前項の適否評価は「適・否」2 段階の絶対評価で以下の各号により行う。

（1）「適」とは、別紙 1－1 に示す各項目において、それぞれ委託目的及び条件等に照らし合わせ、必要な内容を備えているものをいう。

（2）「否」とは、（1）でないものをいう。

（3）判定する各項目の「適」「否」の総数を分母とし、「否」の割合が 3 分の 1 を超えるものまたは同一項目について適否判定を行った者の過半数が「否」と判定をした企画提案については、不適格なものとみなし選定対象から除外する。

3 第 1 項に基づく適否判定の結果については、大気・水環境課長の承認を得たうえで、選定委員会に報告を行う。

（評価及び選定）

第 3 条 選定委員会は、以下の各号により選定業務を行う。

2 第 2 条第 2 項の適否判定において「不適格」とされなかったものが 10 者を超える場合は、提出された各企画提案資料等について、別表 1「選定表」の各項目について、別紙 1－2「選定表」により評価を行い、上位 10 者を優良提案として選定する。ただし、提案者が 10 者以下の場合にあっては、これを省略することができる。

3 優良提案に選定されたもの及び前項ただし書きのものによるプレゼンテーションを実施し、別表 2「評価項目」の各項目について、別紙 2－1「選定評価表」により最優秀提案を選定する。

4 評価は、別表 3「評価基準」による 5 段階絶対評価とし、以下の各号により行う。

（1）各選定委員は、別表 2 の評価の視点に基づき、評価項目ごとに採点する。

（2）選定委員 1 名以上がいずれかの項目について評点 1（不十分である）と評価した場合は、その者を失格とする。

5 総合計点が最高得点の者を最優秀提案者とする。なお、総合計点が同点の場合は、委員の協議によって最優秀提案を決定する。委員の協議により意見の一致をみない場合は、出席委員の採決により決定する。採決によっても決定することができない場合は、委員長が決定する。

(プレゼンテーションの実施)

第4条 プレゼンテーションは、別紙3「プレゼンテーション細目」に基づき実施する。

(選定基準に定めのない事項)

第5条 その他、最優秀提案の選定に関してこの要領に定めのない事項は、選定委員会で決定する。

評価集計表

【別表1】選定表

評価項目		得点 (満点)	評価の視点
1	企画力	40	企画内容が分かりやすく表現されているか。
2	実現力	10	実際に実施できる内容であるか。
3	提案力	20	業務の目的を達成するための提案内容か。
4	計画力	5	実施体制、業務配分やスケジュール管理が適切に計画されているか。
5	経済合理性	5	企画内容からして見積額は適正であるか。

※80点満点

【別表 2】 評価項目

評価項目		評価の視点		配点 (満点)
1	企画力	企画力 1	・印象的で心に残るようなストーリーが設定されているか。	10
		企画力 2	・海岸漂着物問題の解決に向けて、一人一人が取り組むべきことを具体的に伝える内容か。	10
		企画力 3	・一過性のものではなく、視聴者に継続的な取組を促せるよう共感できる内容となっているか。	10
		企画力 4	・幅広い年齢層の視聴者が関心をもって見ることができるよう分かりやすく工夫されているか。	10
2	実現力	・仕様書に求めるアンケート人数を満たす工夫がなされているか。		10
3	提案力	提案力 1	・普及啓発物品に使用できる人物やキャラクターを設定しているか。	10
		提案力 2	・自由提案は、独自のアイデアが盛り込まれており魅力的か。	10
4	計画力	・実施体制、業務配分やスケジュール管理が適切に計画されているか。		5
5	経済合理性	・企画内容に対して見積額が適正であるか。		5

【別表 3】 評価基準

評価内容	配点	5 点満点 (各配点 × 1)	10 点満点 (各配点 × 2)
非常に優れている	5	$5 \times 1 = 5$	$5 \times 2 = 10$
優れている	4	$4 \times 1 = 4$	$4 \times 2 = 8$
普通	3	$3 \times 1 = 3$	$3 \times 2 = 6$
やや不十分である	2	$2 \times 1 = 2$	$2 \times 2 = 4$
不十分である	1	$1 \times 1 = 1$	$1 \times 2 = 2$

※評価は絶対評価とする。

※配点が 10 点満点の評価について、配点 × 2 とする。